

責任をとるといふことは

生徒会規約の第9条第5項には次のように謳（うた）われています。

「生徒会執行部は8名の専門委員長を指名し、その責任を負います。専門委員長は、各委員会の活動の運営、指導、推進の全責任を負います。」

これによると、委員長は生徒会執行部が決めることになっています。ただし、決めた以上は執行部が責任をとらなければなりません。考えてみれば当然ですよ。決めた当事者の執行部、とりわけそのトップの生徒会長が最高責任者となるわけです。

ここで問題になってくるのが「責任をとる」ということです。「どうすることが、責任をとることになるのか」が世間の中でも明確になっていないので、政治においては何か問題が起こると関係者が辞めて中途半端なまま終わってしまい、後味の悪い状態が生まれるだけです。

そこで、私は思います、「責任をとる立場の人は、ことが起きてから腰を上げるのではなく、取り組み状況を常に把握し、日頃から敏感になっていなければならぬ」と。「起こってから責任」より、「取り組んでいる段階での責任」の方が大切だと思いますが、皆さんはどうですか。

今日から委員長面接が始まりました。「委員長を選ぶときには面接をする」という内容は規約にありますので、必ずしも実施する必要はありません。立候補しようがしまいが、執行部がやらせたい人物を選んでしまえばよいのです。

面接を実施するというのは、中学生ならではの発想かもしれません。北中の執行部も、立候補者一人一人のやる気や考えを確かめてから決めるといった方法をとっています。優しい選び方ですね。仲間を大切に作る皆さんならでは、と言えますね。

この委員長面接で注意してほしいことがあります。それは、委員長を選ぶ材料としてだけの面接にしてほしくないということです。選ぶということ以外に、面接にどんな目的があるのでしょうか。

それは委員長候補者を刺激して意識を高めることです。立候補してきたままを受け入れるのではなく、面接で執行部が質問や意見をすることです。上に立つ執行部が、それではまだ満足できないという意思表示をすれば、委員長は今の自分が考えているより、高いレベルの活動を目指すことでしょうか。これが「取り組んでいる段階での（生徒会執行部の）責任」だと私は思います。

（九月二十九日 記）